■■メールマガジン「静岡県防災」第64号■■

～ 地震災害時に命が助かった後、最初に困るのは？ ～

先日、NHKの番組で、「<防災の備えに>携帯トイレ完全ガイド」として、災害時のトイレの重要性を取り上げていました。

番組の中で、災害時のトイレ事情として、静岡県が支援に入った穴水町の皆さんから、「避難所の中学校が解錠されていないため、集まった住民が校庭の隅で用を足した」とか、「避難所が開設されたものの、トイレが流れず、携帯トイレもなく、汚物が山盛りになってしまった」といった惨状が語られていました。

私も先日、キャンプ場で、汚物が流されていないトイレに入っしまい、「うえっ！」と感じてしまいましたが、汚物が山盛りのトイレとなると、もっと大変なことになるだろうと感じました。

災害時に命をつなぐためには、水も食料も大切ですが、尿意・便意は待つはくれません。前述の住民の方は、「トイレに行くのを控えるため、食べること・飲むことも控えてしまった」と話していますが、そうした我慢は、災害関連死のリスクのひとつにもなり得ます。

自宅でも、大規模災害により上水や下水が絶たれた場合には、トイレが使えなくなってしまいます。

「令和6年度南海トラフ地震に関する県民意識調査」によると、各家庭で携帯トイレ・簡易トイレを「7日以上備蓄している」という方は23.0%ですが、「備蓄していない」という方も33.6%おり、災害時のトイレの重要性についての理解はまだ十分ではありません。

携帯トイレの重要性や使い方についてのYouTube動画が、「日本トイレ研究所」から公開されていますので、ご視聴いただけますと幸いです。

<https://www.youtube.com/watch?v=BHCemtY7sD4>

「災害時、水洗トイレは使えない？」7分21秒

<https://www.youtube.com/watch?v=8MFElt6f0Vk>

「災害備蓄の必需品、携帯トイレについて」8分49秒

1人1日5回分を目安に、携帯トイレの備蓄を進めましょう！